

最上川下流、赤川大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

日 時：平成28年5月30日（月）13：30～15：00

場 所：酒田河川国道事務所2階大会議室

議事概要

- ・（1）規約及び傍聴規定について説明し、質問を受ける。
- ・（2）ビジョンの説明（3）現状と取組状況の共有（4）目標案 について一括説明し、質問を受ける。
- ・その他として、委員が発言。

（1）についての質問

～山形県庄内総合支庁総務企画部長～

「最上川下流」という表現を使っているが、どこからどこまでの区間か決まっているのか。

—事務局—

最上川は大変長い河川なので、置賜、村山地方を「最上川上流」として山形河川国道事務所が管理しており、北村山から最上地方を「最上川中流」として新庄河川事務所で管理しており、庄内地方を「最上川下流」として酒田河川国道事務所が管理しており、「最上川下流」と表現している。

（2）についての質問

～山形県庄内総合支庁総務企画部長～

活断層上に堤防が存在する場合は、どのような対策をとるのか。

—事務局—

活断層上の堤防を強化しても活断層には勝てないので、被害が発生すれば速やかに復旧して、出水に備える対策をとる。

以下は、その他での主な発言内容（発言順）

～鶴岡市長～

先般、酒田河川国道事務所から、全国的に想定外の雨が降る状況について説明を受けたが、現在のハザードマップだけでは対応できないことを認識している。鶴岡市内では高い建物がなく、今まで洪水時の避難場所に指定していたところだけでは対応しきれない。市内の建物を再度調査して、赤川の洪水対応、ハザードマップ作成について酒田河川国道事務所から指導を受け、地域住民と一緒に考えていきたい。

～庄内町長～

庄内町では、最上川、京田川があり、5年前に排水ポンプを購入・準備したら洪水がこなくなった。以前は毎年洪水が起きていた。京田川の溢れ方を見ると支障物（橋や木）が流れを止めて、上流からの水が滞留してしまうということで、原因と結果がわかることが多かった。そういったものの排除がハード対策になる。ピンポイントで雨が降っているのに、降っているところが大変だということはわかるが、実際にはどこがどのような状況で大変なのかという把握がライブカメラでもわからないし、地理的に河川の水量が一気に増えるのも見えない。気象庁のメッシュ降水予測でどのような対応するかがソフト対策として整理が必要である。一集落の一部は雨が降っているが、ほかは降っていない状況なので、我々がどういう判断をして避難勧告・避難命令を発令するか判断が非常に難しくなっている。

～三川町長～

過日、酒田河川国道事務所から赤川流域の浸水想定区域図について説明をうけた。町民は赤川の氾濫、堤防決壊等災害に対しての意識が足りないと思う。今回の浸水想定結果から、自分の地域がどうなるかということを町民に周知をしていかなければならないことが課題である。赤川流域の中でも、河川勾配が緩やかである地形だけに、大規模災害を想定した浸水想定区域図に基づいた住民への周知を、町としてもしっかり行っていきたい。

～酒田市 危機管理監～

避難指示がいかに確実に住民にいきわたるかということに留意している。他の災害でも取り残されたりする住民がいるなかで、判断して避難指示を発令したときに、周知が徹底されるかということ、市としても何かをしなければいけないということで防災ラジオを導入する。住民に意識をもってもらう必要があると思っているし、市としてもそこを詰めていきたい。

～鶴岡市長～

鶴岡市の行政面積は鼠ヶ関から朝日まで広いので、天気は違っている。ピンポイントの気象情報をどこが提供してくれるのか危惧している。

温海地区には河川が4つある。過去には南から2河川は集中豪雨でかなりの被害をうけたが鶴岡市側の河川は大きな被害を受けなかった。そういうこともあり、的確な情報をいただきたい。

それから、月山ダムの恩恵も感じている。これからも月山ダムの洪水調節について情報提供をお願いします。

～山形地方気象台長～

気象庁では、どこで危険度が高まっているかを分かりやすくするためメッシュ情報に力を入れている。今年度は、道路や鉄道等の地図情報を重ねた降水ナウキャストや土砂災害危険度判定メッシュ情報を提供し分かりやすくした。

洪水については、名称は未定だが大雨警報（浸水害）を補足するメッシュ情報や気象台の洪水警報を補足するメッシュ情報を開発しており、来年度から一般に提供する予定。

大きな河川（指定河川）については、国土交通省河川国道事務所と気象台とで共同発表する指定河川洪水予報を利用願いたい。

～庄内総合支庁総務企画部長～

昨年常総市の洪水を受けて、洪水被害を想定した防災訓練を実施した。庄内総合支庁単独で実施したので、他機関と協力できれば訓練の協力をお願いしたい。

～庄内総合支庁建設部長～

河川の支障木、堆積土砂が洪水の原因という話があった。河積回復事業ということで支障木、堆積土砂の撤去を県単独で優先順位を付けて実施している。将来的には国からの交付金を活用できるよう政府への施策提案を行っている。

～月山ダム管理所長～

赤川の浸水想定区域図のとおり、赤川からの氾濫水の広がりを見ると国、県の連携は必要であり、この協議会の意味は大きい。

赤川放水路は有効に機能していると思う。月山ダムを含め河川事業の治水効果も説明していきたい。

～酒田河川国道事務所長～

雨の降り方で、どのように避難の判断をするかという点について、タイムラインを策定したが、今後は今よりもっと避難が早まるかもしれない。先週、洪水対応演習を行ったが、いかにタイミングよく洪水予警報の情報を提供していくかが大切であり、情報共有していきたい。

～庄内町長～

京田川引堤工事が終わって、水はけが早くなった。

海の干潮・満潮の影響で、満潮時には河川に逆流するのではないかと。干潮・満潮の組み合わせも含めて、雨の状況を判断していくことは必要ないのか。

—事務局—

河川の計画をするときは、潮位も考慮している。